

# 欧州視察に 参加した生徒に 感想を聞きました



## 思いを伝える大切さを実感

現地の食事が印象的で、夕食は冷たい料理を食べる風習があると聞いていましたが、ホストファミリーがドイツならではの温かい食事を振る舞ってくれました。高校の授業では生徒が積極的に発言する場面が多く、自分の思いを相手に伝えるためには、話すことが大切だということを改めて感じました。この経験を生かして、何事にも物おじせずにチャレンジしていきたいです。



坂本 貫奈 さん  
(2年)

## 教育の違いを発見・最高の毎日に

数学の授業では、解くまでの過程を考えていく内容が印象的で、日本とは一味違った学習スタイルだと感じました。気候の違いなど大変なこともありましたが、見るものや食べるものの全てが新鮮で、疲れを忘れてしまうほど楽しい毎日でした。この葛巻高校ならではの欧州研修は、英語を苦手としていても、興味がある人にはぜひおすすめしたいです。



谷地 樺林 さん  
(2年)

## 郷土芸能で日本の魅力を発信できた

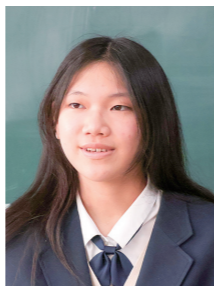
日本について紹介する機会があり、今回参加した生徒4人が郷土芸能部に所属していたので、日本の郷土芸能にスポットを当てて紹介しました。それぞれの出身地の郷土芸能と葛巻神楽を披露し、大きな反応を得ることができました。視察を通じて、英文の読解力が身に付いたと思います。欧州視察は楽しみなことを見つけられれば、誰でも挑戦できる良い機会だと思います。



青嶋 帆乃海 さん  
(2年)

## パイプオルガンの演奏に感動

ホームステイ先のお父さんが教会のオルガニストで、実際にパイプオルガンを演奏してくれました。「君が代」などさまざまな曲の演奏に、涙を流すほど感動しました。視察に行けると決まった時は少し不安がありましたが、初めてのことも1歩踏み出してみれば案外できるということを感じました。自分が知らない世界に飛び込んでみるという経験は大事だと思います。



本田 ひかり さん  
(2年)

## 数々の交流体験で視野を広げられた

現地の人と生活を共にし、コミュニケーションを図ってみて、相手を知ることの大切さを学びました。授業では、バディと一緒にドイツ語やスペイン語など多言語を楽しく学習できました。自分の視野を広げるといった目標を持って研修に参加しましたが、現地での交流を経て、日本とドイツの文化や価値観の違いを知ることができ、良い経験になりました。



大杉 飛有馬 さん  
(1年)



1 ビーデンコプフ郡知事（中央）の元を訪問した視察参加者の皆さん  
2 マールブルク市内でドイツの文化や建造物について学習  
3 お世話になったホストファミリーとのお別れパーティーの様子  
4 ランタール高校の日本語クラブに所属する生徒を前に日本の伝統芸能を披露  
5 天然色素を活用したイースターエッグのペイントを楽しむ生徒たち

くずまき高原国際交流推進協議会（中崎和久会長）主催の第25回欧州視察「ワインとミルクの旅」は、3月6日から16日までの11日間の日程で行われました。今回は葛巻生5人を含む8人が視察に参加。生徒はドイツのマールブルク市で6日間ホームステイをしながら、同世代のバディと共に現地の高校の授業に参加しました。授業では70人ほどの生徒を前に、クイズ形式で葛巻町について英語で紹介。葛巻神楽の演舞による郷土芸能の紹介も行い、現地の好評を博しました。ホストファミリーとの共同生活をはじめ、ドイツの文化を肌で感じた生徒たちは、異文化理解に加えて、さまざまな分野の知見を深めるなど、貴重な経験に満ちた様子でした。

# 第25回欧州視察 「ワインとミルクの旅」 異文化を肌で感じた11日間

2月27日

欧州視察へ出発前  
町長らを表敬訪問



鈴木町長と笑顔で懇談する生徒たち

視察参加者は、研修への出発に先立ち、鈴木重男町長、觸澤義美副町長、石角則行教育長の元を訪れ、視察に対する決意表明などを行いました。鈴木町長は自身の海外での経験談を交え「海外視察は貴重な経験で、どんなにわずかなことも勉強になる気になることは貪欲に質問し、自身の成長の糧となるものにしてほしい」とエールを送りました。